

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)
(ふりがな)	なかの やすと 中野 康人	
連絡責任者氏名		科目設置機関名
(ふりがな)	わたなべ つとむ 渡邊 勉	関西学院大学 社会学部
授業科目名	科目認定番号	受講者数
社会調査実習 I	KSGa-110715-0	27名

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：今年度の社会調査実習では、「防災」をテーマに設定した。開講直前に発生した東日本大震災を受けて、併設する演習の時間に災害社会学と災害心理学の文献を輪読した上で、調査の企画を行った。仮説の設定、質問文の作成、実査、分析、すべてにわたって受講生の積極的な参加が見られた。質問項目の中には、必ずしも各自が設定した仮説を検証するのに充分でないものが含まれている。あえて不完全な質問文を残すことによって、実査時や分析時に受講生の意図通りのことができない体験をしてもらうという主旨である。

## II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：関学生の「防災」(意識と行動)

2. 調査の内容/概要：「風評被害」「災害情報」「噂」「安心」というサブテーマで、意識や行動を質問した。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：今回の調査実習の実査においては、無作為抽出はおこなっていない。母集団は関西学院大学在校生約2万人で、受講生27名が各15票を集めることを目標にして、318票を回収した。

4. 主な調査項目：基本属性(性別、学年、学部、所属団体)、収入、恋愛経験、災害時の行動、日常の防災対策、防災意識、メディアへの信頼度、ボランティア経験、寄付など

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集(現地調査)の方法：調査員(受講生)が各自15票を獲得することを目標とした、非無作為抽出による調査票調査

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2011年6月20日～2011年7月1日。関西学院大学上ヶ原キャンパス。調査員27名。

7. 収集したデータの量と質への評価(量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：無作為抽出ではないので、調査結果の代表性はとぼしい。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：基本的にRを利用して量的な集計を行った。単純集計で概要を把握。クロス表(モザイクグラフ)で変数間の関係を探った。

9. 調査の成果(調査から得られた主な知見など)：災害への関心度と不確実な情報への信頼度は関係がある。性別によって風評を信じる度合いは異なる。メディアとの接触時間とメディアへの信頼度は関係がある。など。

10. 報告書刊行の予定と概要：社会調査実習Iとして、公表する報告書の刊行予定はなし。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の\*印の箇所には数字を(\*/\*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的に記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。